

# 宇部高専生つながり隊の活動について

日高 良和\*・小松 繁綱\*

## UNCT students's creating connection with local people

Yoshikazu HITAKA\*, Shigetsuna KOMATSU\*

**Abstract :** This time, we participated in the outdoors experience classroom because of the contribution from Hatsuratsu Choshu the Yamaguchi Prefecture assistance fund. Our sense of fun was cultivated through this experience. Moreover, we recognized again that it was "To teach is to learn". We hope to create a new connection with people in our community and to contribute to the local revitalization, making the best use of this experience.

**Key words :** experience, sense of fun, teach, learn, connection

### 1. はじめに

これまで私たちは地域教育や自主活動奨励事業の一環として、地域の小・中学生を対象としたものづくり教室や科学教室<sup>1)</sup>を実施してきた。平成20年度に、山口県の産業振興・人材育成等の支援を目的とする株式会社西京銀行が販売する投資信託「山口県応援ファンド・はつらつ長州」から宇部高専生つながり隊の活動に対して寄付金を頂き、その活動の一環として野外体験教室に参加した。この体験教室は子供達の指導者である私たちの研修として、これまでのもの作りとは違った「自然に触れる」ことをテーマとして参加し、そこで感じ・学んだ事について報告する。

### 2. 宇部高専生つながり隊について

宇部高専生つながり隊は、学生が地域の子どもたちを対象とした工作教室や野外活動などを通じて人や地域とのつながりを理解して、卒業後に社会人として地域で活動できるようにする目的で活動を行っている。そのために、地域の小・中学生を対象として電子工作教室やロボット教室といった様々な体験教室を実施している。そして、この活動によって子供達がものづくりに興味を持つきっかけとなり、私たち自身も共に学び成長していきたいと考えている。

(2008年11月28日受理)

\*宇部工業高等専門学校 電気工学科

### 3. 野外体験教室における活動内容

野外体験教室は平成20年5月31日(土)、6月1日(日)の一泊二日に亘り、山口県山陽小野田市の竜王山公園オートキャンプ場で開かれた「遊びの達人 サポーター養成講座」に学生7名が参加した。この体験教室は講師として九州あそびの研究所所長の中島宏先生を招き、指導者として子供達にレクレーションを行うときに必要な知識や遊び心を養うことを目的として開かれた。

#### 3-1. 一日目の活動について

一日目の活動内容としては、まず自分達の寝床となるテントを組み立てた。テントを組み立てるのは初めてであったので、上手にできるか不安であったがなんとか組み上げることができた。テントを組み上げる際に、テントの隅をロープで張って地面に固定するのだが、きちんとしたロープの結び方を知らなかった私たちはその作業に手間取ってしまい、見様見まねでロープを結んだ。

テントを張り終わると、図1に示すようにロープワークについての講義を受けた。ロープの結び方の種類は非常にたくさんあるため、主なものをピックアップして教えていただいた。ロープワークはテントを張る時にも用いられるが、他にも結び方によって様々なことに応用できることを学んだ。ただロープを結ぶという行為がこんなにも楽しいと思ったのは初めてであった。目的意識を持つ事によってちょっとし

たことが興味の対象となることを感じた。また先生も楽しそうに説明をされていて、説明する側であっても遊びにおける感性としての遊び心が必要であることを感じた。



図1 ロープワークに取り組む様子

また、食事は手順を教えてもらいながら自分達で野外調理に取り組んだ。普段、私たちは工具を用いて金属板を加工したり、半田ごてを握って電子回路を組んだりなどのものづくりには取り組んでいる。しかし、包丁を持って野菜を切ったり、肉に衣をつけたり等の作業はほとんど経験したことがない。図2に示すように包丁で野菜を切るときはスムーズにはいかず、図3に示すように衣を鍋に入れるときも恐る恐る入れた。料理が出来上がって、自分達が作ったものを食べてみると、とても美味しく同時にとても嬉しかった。普段、用意されている物を食べているだけでは知ることができない料理を作ることの大変さやありがたさを実感することができた。



図2 野菜を切っている様子



図3 揚げ物をしている様子

また、キャンプなどにおいて野外で料理をするのであれば、当然火を使う事もある。図4、図5に示すように調理の際には失敗することなく火を熾す方法を伝授してもらった。よく、新聞紙を火種として使う場合があるが、それよりも「牛乳パック」を用いる方が良い事を教えてもらった。牛乳パックは、図4に示すようにはさみで交互に切り込みを入れて加工する。これは丁度キャンプファイヤーの時に木の棒を組むような形と似ていて火が燃え続けるための酸素を効率よく供給し易くするのだそうである。そして、木炭をその中に入れることで、効率よく火を熾す事ができるのである。また図5に示すように、牛乳パックは新聞紙の様に燃えると灰が舞い上がることがない。また、木炭はあまり大きいものよりもハンマーなどを使って程よい大きさに砕いた方がよい事を教わった。自然の中で生きていくための知恵を一つ教わり、火がついたときは感動した。



図4 火を熾す準備をしている様子



図5 火の熾し方を習っている様子

食事をする頃にはすっかり日が落ちて、山の中ということもあり辺りは真っ暗となった。ランタンに火をつけその明かりの下、皆で食事をとった。自然の中、おしゃべりをしたり歌を唄ったりと、笑顔で皆と食事することはとても楽しかった。お風呂は近くの温泉に皆で行き、その後昼間立っておいたテントに入り就寝した。

### 3-2. 二日目の活動について

2日目は、起床して朝食を作り食事をした後、自分達が泊まったテントの片付けをした。その後、図6に示すようにオリジナルロープを製作した。オリジナルロープの製作には、刺繍糸と専用の器具を使用して製作に取り組んだ。まず糸の色の組合せを選び、器具のフックに糸を引っ掛けて一人が糸の端を持って糸を張る。そして、もう一人が器具のハンドルを回す事によって糸が綺麗に混ざり合う。その状態で、3人目が糸を整えてオリジナルのロープが完成する。

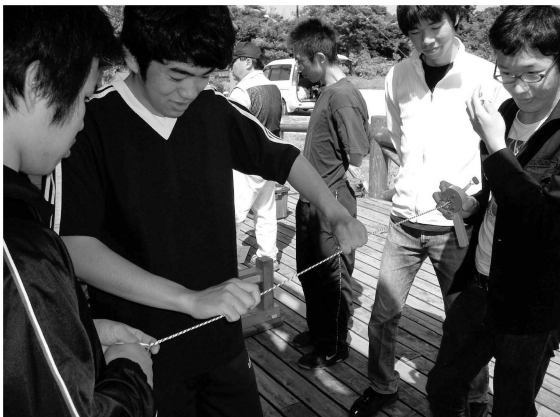


図6 オリジナルロープの製作に取り組む様子

オリジナルロープが完成した後、図7に示すように、ストローを用いた笛の製作に取り組んだ。ストロー笛は、ストローの先をはさみで切って、つぶすだけという簡単なものでは

あるが、音を出すのに少しコツが必要である。ストロー笛から出る音はとても大きく、またカラスの鳴き声にも似ているためカラスと会話をする事ができると先生から教わった。実際に先生はストロー笛を使ってカラスと会話してみせ、皆とても驚いていた。



図7 ストロー笛の製作に取り組む様子

次に、図8に示すようにペットボトルを用いた救助用の浮輪について説明を受けた。身の回りにある500mlのペットボトル1本あれば、大人一人の浮輪代わりになるというから驚きである。ペットボトルに紐を結び、錘として中に少しだけ水を入れる。そして、溺れている人の近くに投げつけてやることで浮輪として使えるのである。また、キーホルダーに付いているような金属製のリングをペットボトル側の近くに結びつけ、それを上手く利用することで遠くまで飛ばす事も可能である。



図8 救助用ペットボトル浮輪の説明

昼食の時間になると同じ様に自分達で料理をつくり、図9に示すようにアルミ缶パン作りに取り組んだ。アルミ缶をハサミで切って加工し、その中にパン生地を入れて炭火で焼いた。またパン生地をアルミ缶の中に入れる前に、パンが焼きあがったときにアルミを剥がし易いように予めサラダ油を

アルミ缶の内側に塗った。パンが膨らむのには少し時間がかかったが綺麗に膨らみ、食べてみるととても美味しかった。このような方法を用いてパンを作ることができることを知らなかったのでも面白かった。



図 9 アルミ缶パン作りに取り組む様子

その後、図 10 に示すように動物と森に住む、かくれん坊という男の子が一人の男の子と「かくれんぼ」をするという絵本の話を読んで聴かせてもらった。お話の中でかくれん坊や動物たちはじっくりと探さないとぜんぜん見つけられないくらい上手に隠れていた。お話を聴いた後、今度は実際に先生が予め近くの草木の中に動物の人形を隠しているのを見つけるという本の内容に近い遊びをした。隠してあるとは言うものの、実際にはただ草木の中に置いてあるだけなのになかなか見つけることができず、皆必死に草木の中に目を凝らしていた。隠れている動物たちは、周りの草木と同じような形、色をしており、動物が隠れているというよりも自然と同化しているように感じた。なかなか見つけるのは難しいので、動物を見つけたときは声を大にして喜んだ。このような遊びを通じて自然に触れ、物事に対する感性を磨くことができるのだと思った。



図 10 本の朗読を聴いている様子

自然の中でかくれんぼを楽しんだ後、ジャムの空き瓶と針金を使ったオリジナルのランタンを製作した。皆それぞれ個性溢れる作品となった。

そして、最後は図 11 に示すように巨大なパチンコで水風船を遙か遠くまで飛ばすというとても遊び心に溢れたレクリエーションを行った。私たちが想像していたよりもずっと遠くに飛んだ。50m 以上飛び、地面に激突して水風船が割れるので驚きと喜びで私たちは心を躍らせた。



図 11 巨大なパチンコで水風船を飛ばす様子

#### 4. まとめ

今回の野外体験教室に参加することで普段私たちが体験する事ができない新しいことを経験することができた。自然の中で遊ぶことで、その中に多くの学ぶ事があることに気づいた。そして遊びに関する感性、「遊び心」というものを磨くことができ、同時に遊び心を持つ事の大切さを知った。そして活動の中で様々な知識を学び、学ぶことの喜びや、人との出会いによる「新たなつながり」というものを感じることができた。何か新しいものを教えてもらう事はとても楽しい事であることを改めて実感した。子供達に教えるには自分自身が前もってそれを学んで理解し、自分の中に体験としてあることが前提となる。つまり「教えることは学ぶこと」なのである。今回の体験で学んだ事をこれからの活動に活かし、地域活性化に貢献していきたいと思う。

#### 参考文献

- 1) 日高良和, 碓智徳, 天川勇二, 前川尚輝: “地域における科学教室の試み”, 宇部工業高等専門学校研究報告, 第 54 号, pp.67-68, 2008.3.